

かのや型スマート農業推進方針（概要版）

本市農業の現状と課題

- 温暖な気候、広大な農地など恵まれた環境の下、多種多様な農業生産を展開
- 県内一の耕地面積を誇るものの、経営耕地面積は減少傾向
H17：6,574ha→H27：5,438ha
- 農家数は減少し、高齢化も進展
H17：6,069人→H27：4,115人
65歳以上の割合：65%（H27）

スマート農業の現状

- 国においては、IoT、ロボット技術を活用したイノベーションを推進するため、研究開発や現地実証、新技術を普及させるための支援や環境づくりなどを推進
- 県においても、スマート農業を推進するための方針を策定

農業者の期待

- 研究会における主な意見
 - ・生産環境の見える化や経験をデータ化していくことが必要
 - ・将来的には農業機械の無人化による自動走行は必要など
- アンケート調査結果
 - ・約4割が労働力不足を実感
 - ・超省力化・大規模生産の実現や作物の能力を最大限に発揮する技術に対する期待が高い

推進方針

- 推進方針の位置づけ
耕種農業の持続的発展に必要なスマート農業の導入の方向性を示したもの
- 導入に当たっての基本的考え方
農業特性や生産環境、社会情勢などを踏まえつつ、次の基本的な考えの下、技術等の選定・導入を図る
 - ・作業の省力化・効率化や生産性の向上など農業経営に有益であること
 - ・最大の地域資源である広大な農地を有効に活かせること
 - ・畑地かんがい施設など農業振興に寄与する施設等の有効活用につながる
 - ・経験の浅い農業者の栽培技術の向上等に資するなど、新規就農者や担い手の確保につながる
 - ・地元企業や市民が本市の農業を深く理解し、農業振興に対する協力が得られるよう配慮すること
- 具体的な推進方針
普及に向けて取り組む技術（8技術）、中長期的に取り組む技術（11技術）、将来的に導入が求められる技術（2技術）を設定

	普及に向けて取り組む技術	中長期的に取り組む技術
水稲	ドローンによる防除施肥 水管理システムの活用	自動走行機（田植機、コンバイン） ドローンによる農薬等スポット散布 ドローンによる直播
露地野菜	ドローンによる農薬散布 スマートアシストスーツ	高精度直線作業アシスト装置 ドローンによる自動施肥量の調整 さつまいも採苗・定植作業の省力化 さつまいも収穫作業の省力化
施設園芸	施設内の環境制御装置	栽培技術の継承
茶	生産履歴管理システムの導入 自動散水・止水制御装置	無人走行摘採機
畑かん		ITによる自動かん水・同時液肥混入
経営	ICTによる経営の見える化	マッチングアプリによる労働力の確保

※将来的に導入が求められる技術
さつまいも収穫・選別作業の省力化、寒冷紗被覆作業の軽労化技術

- 普及に当たっての進め方
 - ・農業者の自主的な取り組みが促進されるような気運醸成に配慮した普及に努める
 - ・現地実証の取り組みにより技術の検証を図った上で普及を図る
 - ・関係機関と十分に連携を図りながら進める